

第66回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2011年8月22日（月）10:00～19:30
 2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
 3. 出席者：（委員24名中、出席者22名；敬称略）
小山（三菱重工）、永田（日立GE）、堂崎（原電）、三木（富士電機）、植田（原安委）
小木曾（川崎重工）、吉田（発電技検）、国則（電気協会）、船田（JNES）、兼近（鹿島）
平山（東芝）、鬼沢（JAEA）、三浦（JSW）、鹿島（電中研）、肥田（中部プラント）
町田（テプシス）、野村（関電）、山田（中部電力）、望月（阪大）、杉江（原技協）、月森（JAEA）
代理：濱中（東電；小島委員）、齋藤（東芝；平山委員 15:00以降）
欠席：栗飯原（東大）、藤澤（保安院）
オブザーバー：薄井／丸岡（JNES）、齋藤（原技協）、片山（関西電力）、阪田（OCL）
中野／関／柴山／石生（三菱重工）、齋藤／山本（東芝）、伊藤（東電）、澄川（日立ICC）
大坂／清水（日立GE）、古川／藤野（日本原電）、浅山（JAEA）、下条（神戸製鋼）
加納／長津／高坂／平（日本原燃）
事務局：高柳
 4. 配布資料
- 66-1：第65回原子力専門委員会議事録案
 - 66-2：投票結果
 - 66-3：新規質問及び未回答質問
 - 66-4：第57回発電用設備規格委員会議事録案
 - 66-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案
 - 66-6-1：規格委員会及び専門委員会運営規約改訂提案
 - 66-6-2：デジタルRT技術を用いた規格案の作成
 - 66-6-3：高速炉ISI方針検討タスクの設置
 - 66-6-4：材料規格改訂方針進捗状況
 - 66-6-5：平成22年度原子力先進国の設計基準等に関する調査及び検討報告会
 - 66-6-6：MDEP成果反映方針検討タスク概要
 - 66-6-7：ノート特集号投稿
 - 66-6-8：原子力専門委員会委員長の選任手続きについて
 - 66-6-9：一部発電用設備規格に関する公衆意見の募集計画案
 - 66-6-10：臨時拡大規格委員会概要
 - 66-7-1-1：材料規格一次改訂作業フロー（改2）
 - 66-7-1-2：材料規格一次改訂マスターシート
 - 66-7-1-3：材料規格2011年改訂発行版に対する編集上の修正提案
 - 66-7-2：質疑応答
 - 66-8-1：金属キャスクバスケット用アルミニウム合金事例規格
 - 66-8-2：金属キャスク事例規格「溶接部の機械試験に関する代替規定」案
 - 66-8-3：金属キャスク構造規格に関する質疑応答
 - 66-8-4：ボロン添加アルミニウム／ボロン添加ステンレス鋼の破壊靱性試験に対する規定
 - 66-9-1：テンパービード溶接方法改訂案
 - 66-9-2：事例規格ニッケル合金溶接金属のBWR環境中のSCCき裂進展速度案
 - 66-9-3：建設中の供用前検査実施時期
 - 66-9-4：第2回目以降の検査間隔における試験順序
 - 66-9-5：試験カテゴリC-F全体積UT代替可否
 - 66-9-6：95℃を超える系統の支持構造物の補修後の供用前検査
 - 66-9-7：事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案
 - 66-9-8：磨き加工による応力改善方法案
 - 66-9-9：維持規格2011年追補版公衆審査意見対応

66-10-1：ホットワイヤティグ溶接電極数
66-10-2：事例規格母材のP-NO区分
66-10-3：溶接後熱処理を要しないもの
66-10-4：質問QNB200706回答案
66-10-5：溶接規格改訂案
66-11-1：設計・建設規格への質問回答案件
66-11-2：設計・建設規格第Ⅰ編 2011 年追補版編集上の修正及び発行提案
66-11-3-1：設計・建設規格第Ⅰ編 2012 年改訂版改訂案
66-11-3-2：設計・建設規格 2012 年改訂版改訂案件一覧
66-11-4：事例規格応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮
66-12-1：CCV規格2011 事例規格書面投票に対する回答及び事例規格改訂内容
66-12-2：CCV規格2011 事例規格
66-13-1：再処理設備 設計規格 2010 年版改訂
66-13-2-1：再処理設備 維持規格における書面投票前コメント
66-13-2-2：再処理設備 維持規格における書面投票前コメント
66-13-2-3：再処理設備 維持規格
66-13-2-4：再処理設備 維持規格 解説
66-13-2-5：再処理設備 維持規格
66-13-3：再処理設備 溶接規格反対意見対応
66-14：高速炉規格 2011 年追補版案の書面投票の結果と対応案
66-15：各分科会報告

5. 議事内容

(1) 開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

(2) 出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

(3) 議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

(4) 前回議事録確認【資料 66-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

(5) 投票結果報告【資料 66-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 234 から 242、規格委員会投票 No. 161 から 164 の投票結果が報告された。

(6) 新規質問及び未回答質問【資料 66-3】

事務局より、設計・建設規格に関する質問（5 件）、金属キャスク構造規格（2007 年版）に関する質問（2 件）の新規受付が報告された。

(7) 第 57 回発電用設備規格委員会議事録報告【資料 66-4】

事務局より、第 57 回発電用設備規格委員会の議事録が報告された。

(8) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 66-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕 植田委員、三浦委員、鹿島委員、町田委員

〔退任〕 藤澤委員

〔新任〕 天野氏（保安院）

設計・建設分科会：

〔再任〕 山田副主査

〔退任〕 竹内委員、西田委員、藤澤委員

〔新任〕 天野氏（保安院）、瀬良氏（関西電力）、楠氏（日本原電）

材料分科会：

〔再任〕 山田主査、三浦委員

〔退任〕 藤森委員、竹内委員、谷口委員、藤澤委員、佐藤委員

〔新任〕 長澤氏（IHI）、安田氏（原技協）、天野氏（保安院）、瀬良氏（関西電力）、楠氏（日本原電）、岩波氏（日立GE）

溶接分科会：

〔再任〕 西本主査

〔退任〕 藤澤委員

〔新任〕 天野氏（保安院）

コンクリート製格納容器規格分科会：

〔再任〕 橘高委員、小栗委員、脇岡委員

〔退任〕 星野委員、北川委員、小林委員、佐藤委員、岩井委員

〔新任〕 福田氏（日本原電）、辻氏（原技協）、菊池氏（東京電力）、秋田氏（関西電力）、岩島氏（中部電力）、小林氏（三菱重工）

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕 瀧口委員、白井委員、浦部委員、川村委員

〔退任〕 山本委員、重宗委員、三木委員

〔新任〕 甫出氏（三菱燃料）、片山氏（関西電力）、戸澤氏（富士電機）

配管破損防護設計分科会：

〔再任〕 三宅委員、北浦委員、長谷川委員

維持規格分科会：

〔再任〕 町田委員、杉江委員、平野委員、田中委員

〔退任〕 正影委員

〔新任〕 日野氏（保安院）

環境疲労評価分科会：

〔再任〕 杉江幹事、西川委員、永田委員

〔退任〕 佐藤委員、藤澤委員

〔新任〕 天野氏（保安院）

再処理設備分科会：

〔再任〕 澄川主査、加納幹事、大枝委員、齊藤委員、野島委員、原島委員、水谷委員、矢野倉委員、山本委員、奈良林委員

高温規格分科会：

〔再任〕 大谷幹事、植田委員、定廣委員、橘委員

〔退任〕 丸山委員

〔新任〕 加藤氏（東芝）

配管減肉分科会：

〔再任〕 野崎委員

〔退任〕 森北委員

〔新任〕 天野氏（関西電力）

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補、新任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

(9) 原子力専門委員会運営に関する審議

[審議事項]

(9-1) 専門委員会運営規約改訂提案【資料 66-6-1】

堂崎幹事より専門委員会運営規約改訂提案について説明が行われた。規格委員会運営規約と専門委員会運営規約は材料規格 2008 年版時の規格委員会ガバナンス不足及び規約間不整合の問題に対応するため改訂する必要がある、既に規格委員会運営規約の改訂に関する規格委員会書面投票は終了。今回は原子力専門委員会における専門委員会運営規約改訂のための書面投票提案であり、委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。なお投票時には規格委員会書面投票の結果を添付することになった。

(9-2) デジタル R T 技術を用いた規格案の作成【資料 66-6-2】

山田委員よりデジタル R T 技術を用いた規格案の作成について説明が行われた。デジタル R T 検討タスクにて、デジタル R T を規格化するための大体の方向性が確認できたため、具体的な規格案を作成するに先立ち、規格案の骨子に関する御意見を書面投票で伺いたいという提案。委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。なお、規格化に際してはタスクメンバーや溶接分科会委員が設計・建設分科会非破壊検査作業会を検討の場として加わり、作業を行う計画であるが、どの規格の事例規格とするか等、意見があり、書面投票に意見を述べることになった。

(9-3) 高速炉 I S I 方針検討タスクの設置【資料 66-6-3】

月森委員より高速炉 I S I 方針検討タスクの設置について説明が行われた。高速増殖原型炉もんじゅが運転を再開し、今後の本格運転、定期事業者検査に備え、その I S I 方針を検討するためのタスク設置の提案。委員全員の賛成により書面投票の実施が承認された。

[報告事項]

(9-4) 材料規格改訂方針進捗状況【資料 66-6-4】

材料規格改訂方針検討タスクの齋藤主査より材料規格改訂方針進捗状況について説明が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・材料規格 2011 年版の改訂方針がまとまり、今後の検討課題等明確になったことからタスクの役割は終了。
- ・現在タスクの活動経緯等をまとめた報告書を作成中。

(9-5) 平成 22 年度原子力先進国の設計基準等に関する調査及び検討報告【資料 66-6-5】

永田副委員長より M D E P の状況報告について説明が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・2010 年度はクラス 2 容器等の構造設計に関する各国規格間の比較を実施。相違理由の検討等実施。
- ・今後はこれら相違点の J S M E 規格への反映をタスクの場で検討し、また W N A C O R D E L からの提案にも対応予定。

(9-6) M D E P 成果反映方針検討タスク状況【資料 66-6-6】

小山委員長より M D E P 成果反映方針検討タスク状況について説明が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・書面投票にてタスクは設置済。
- ・震災の影響等により活動が中断しているが、至近に再開する予定。

(9-7) ノート特集号投稿予定【資料 66-6-7】

小山委員長よりノート特集号投稿予定について説明が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・原稿は1件作成中であり、他は完成。
- ・9月末の編集委員会への原稿投稿を予定。

（9－8）原子力専門委員会委員長の選任手続き【資料66-6-8】

事務局より原子力専門委員会委員長の選任手続きについて説明が行われた。小山委員長が2011年12月末で委員長の任期が満了になるため、原子力専門委員会委員長の選任手続きを行う必要があり、委員長候補者の推薦を受け付けた後、投票に移り、次回原子力専門委員会までに新委員長選任を終える予定。

（9－9）一部発電用設備規格に関する公衆意見の募集計画案【資料66-6-9】

事務局より一部発電用設備規格に関する公衆意見の募集計画案について説明が行われた。発電用設備規格案の公衆審査時、一部の規格について公衆審査期間を1ヶ月で行ったが、正規の規約での審査期間（2ヶ月）との不整合が発生したため、今回それを解消するため2ヶ月の公衆審査期間で公衆意見の募集を行うことを予定。

（9－10）臨時拡大規格委員会概要【資料66-6-10】

小山委員長より苛酷事故に備える原子力発電所を実現するための規格基準高度化を目指した臨時拡大規格委員会概要について説明が行われた。今後はこの方向を踏まえ、原子力専門委員会においても必要に応じてタスク等を設置し、規格化を検討する予定。

（10）発電規格に関する報告／審議

（10－1）材料規格改訂案に関する審議【資料66-7-1, 2】

材料分科会の山田主査より材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①材料規格2011年版案に対する編集上の修正【資料66-7-1-1~3】

材料規格2011年版案については公衆審査が終了し、その意見対応も完了しているが、その後の見直しにおいて誤記等が分かり、その見直しを行ったこと、ASME 相当材がない材料の S_m , S 値を新規材料採用ガイドラインに従って見直しを行ったこと等の説明が行われた。議論の結果、本提案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・今回の見直しで、もうこれ以上誤記等はないのか？→6~7月の異動で委員の一部が代わったこと、JNES 新委員が技術評価の一環で規格案の精査等を行ったこと等が見直しの背景。これ以上の誤記はないと考える。

②質問回答案【資料66-7-2】

質問（QNC200585）に関する回答案について説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により「適用される」とする回答案が承認された。

（10－2）使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料66-8-1~4】

使用済燃料貯蔵施設分科会の丸岡幹事、阪田委員、清水委員、下条委員、伊藤委員、片山委員、石生委員より金属キャスク構造規格関係の改訂案等について説明が行われた。内容は以下の通り。

①金属キャスクバスケット用アルミニウム合金事例規格案【資料66-8-1】

金属キャスク構造規格（2007年版）で規定されるバスケットに使用する材料としてほう素添加アルミニウム合金やアルミニウム合金が検討されており、過去制定されたキャスクバスケット材料事例規格と同様の手続で、また材料専門委員会のレビューを踏まえ、検討を進めることが説明された。議論の結果、材料専門委員会のレビュー結果を踏まえて原子力専門委員会書面投票を開始すること、材料専門委員会三役にレビューの事前の打診を行うことで検討を進めることになった。

②金属キャスク事例規格「溶接部の機械試験に関する代替規定」案【資料66-8-2】

原子力専門委員会二次投票結果（可決）を踏まえ、金属キャスクに関する機械試験データの整理を行い、規

格委員会書面投票実施の提案が説明された。データは機械試験基準値を満足することが確認された。鍛造キャスク 2 1 基、多層キャスク 2 2 基のデータの中で提案の 6 条件が同一で、製造期間 2 年以内でかつ溶接長が 60m になるものは多層キャスクの 8~22 番のデータしかないとのことであったが、議論の結果、本事例規格案の規格委員会書面投票提案が委員全員の賛成により承認された。

③金属キャスク構造規格に関する質疑応答【資料 66-8-3, 4】

金属キャスク構造規格に関する質疑応答について説明が行われた。JISG4304, 4305 に関する年版読替は委員全員の賛成により承認されたが、回答文面は「同等以上」ではなく「同等」とすることになった。

またボロン添加アルミニウム／ボロン添加ステンレス鋼の破壊靱性試験における想定き裂、き裂の方向、応力拡大係数の規定の詳細が説明され、了解された。

(10-3) 維持規格改訂案に関する審議【資料 66-9-1~9】

維持規格分科会の野村主査、齋藤副主査、検査作業会の柴山幹事、補修作業会の山本主査、中野幹事より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①テンパービード溶接方法改訂案【資料 66-9-1】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・本改訂案は体系化されていないという反対票については、維持規格補修章全体で議論する必要があるため、本改訂案から切り離して検討する。

②事例規格ニッケル合金溶接金属のBWR環境中のSCCき裂進展速度案【資料 66-9-2】

原子力専門委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

③建設中の供用前検査実施時期案【資料 66-9-3】

原子力専門委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・IA-2100 の規定 3 行目において「ただし」だと目視試験だけやれば良いと受け取る人がいるかもしれないので、「また」の方が良いのでは？→元々支持構造物においては供用前検査は不要であるが、95℃以上は供用前検査として目視試験が必要と規定されている。誤解が生じないように編集上の修正として 3 行目ただし書き以下について改行し「ただし」を削除する。

- ・配管の供用前検査の実施時期について耐圧試験前後のうち耐圧試験後が保守的なのは明白と回答しているが、保守性に問題ないから耐圧試験前の供用前検査を認めることにしたのではないか。→その通りである。後とのつながりが良くないので、耐圧試験前後で差は微小であり問題となるものではない、という主旨に回答を修正する。

④第 2 回目以降の検査間隔における試験順序案【資料 66-9-4】

原子力専門委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

⑤試験カテゴリ C-F 全体積 UT 代替可否案【資料 66-9-5】

原子力専門委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

⑥95℃を超える系統の支持構造物の補修後の供用前検査案【資料 66-9-6】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

⑦事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案【資料 66-9-7】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員多数の賛成（賛成 20 票、保留 1 票）により承認された。

⑧磨き加工による応力改善方法案【資料 66-9-8】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・研磨施工にスコッチブライトが記載されているが、規格中にスコッチブライトという商品名は入れない方が良いのでは？→解説の中で引用している図表に記載されているものであるためこのままとする。
- ・CBB 試験の略語の正式名称を記載すること。

⑨維持規格 2011 年追補版公衆審査意見回答案【資料 66-9-9】

維持規格 2011 年追補版公衆審査意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

（10-4）溶接規格改訂案に関する審議【資料 66-10-1~5】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①ホットワイヤティグ溶接電極数【資料 66-10-1】

規格委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

②事例規格母材の P-No 区分案【資料 66-10-2】

原子力専門委員会再投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

③表-6 溶接後熱処理を要しないもの【資料 66-10-3】

原子力専門委員会再投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、論点を整理したペーパーを 1 枚程度作成し、それを基に二次投票を実施すること、肉盛溶接部残存厚さの 6mm から 3mm への変更は再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ ASME Sec. I 等の規定からすると肉盛溶接またはクラッド溶接による溶接部は基本的に PWHT が対象になるのではないかと？→ ASME Sec. I、III、VIIIともに PWHT の免除規定があり、肉盛溶接またはクラッド溶接に対して全て PWHT を要求している訳ではない。
- ・ ASME Sec. IIIでは肉盛溶接部の残存厚さは 6mm としている。→ ASME Sec. IIIで肉盛溶接部の残存厚さを 6mm としているのは、新規の肉盛溶接を行なう場合の規定であることから、手直し/補修溶接時の残存厚さは、クラッド溶接の場合と同じ 3mm とし、肉盛溶接の残存厚さが 3mm に近い場合は、留意事項を解説に記載する修正(案)にした。

④質問 QNB200706 回答案【資料 66-10-4】

質問 QNB200706 回答案に関する説明が行われた。JIS Z 3122 の曲げ試験片採取図からは、試験材の厚さが 9mm であっても曲げ試験片厚さを 10mm とする試験片を採取することができるため回答(案)は適切でないという意見があり、これに対して JIS Z 3122 の規定は、試験材厚さが 10mm 以上か？ 10mm 未満か？ で曲げ試験片厚さの考え方を変えている規定と解釈すべきとの回答がされた。対応として JIS Z 3122 の解釈を JIS に確認し、その結果を踏まえ再度、審議することになった。

⑤溶接規格改訂案【資料 66-10-5】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。提案案件のうち、No. 5 は上記④が関連し、また No. 8 は他規格の進捗を考慮する必要があるため、No. 5 と No. 8 以外の書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(10-5) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 66-11-1~4】

設計・建設分科会の永田主査、齋藤委員より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格への質問回答案件【資料 66-11-1】

質問 (QNC200564, QNC200583, QNC200146, QNC200805) に対する回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が委員全員の賛成により承認された。

②設計・建設規格 2011 年追補版編集上の修正及び発行提案【資料 66-11-2】

設計・建設規格 2011 年追補版にて溶接規格 2010 年追補版での規定番号見直しを反映する改訂提案を行ったが、この改訂提案の中に一部反映もれがあることが分かり、そのための対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案が編集上の修正であること及び規格委員会に对应案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

③設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂案【資料 66-11-3】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

なお、DC10-047 の平板厚さ算出用 K 値の図の修正提案において、改訂案には関係ないが ASME と JSME の K 値が異なるのかとの質問があり確認の上報告することになった。

④事例規格応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮改訂案【資料 66-11-4】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10-6) コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案に関する審議【資料 66-12-1, 2】

コンクリート製格納容器規格分科会の大坂委員より、材料規格、設計・建設規格及び溶接規格の読替事例規格案の原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・「読み替えて良い」という記載は「読み替える」とすべきではないか？→規格の年版は本文記載事項であり、事例規格がその本文記載事項を超えることはできない。そのため提案通りとする。

(10-7) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 66-13-1~3】

再処理設備分科会の澄川主査、加納幹事、溶接規格作業会の高坂幹事、平委員、維持規格作業会の長津幹事より再処理設備規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計規格 2010 年版改訂案【資料 66-13-1】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・ JEAC4601-2008 年版の反映はどの様にして行ったのか？新旧比較表を作成して読替を検討したのか？→

GER-2230 において地震荷重に対する許容基準を規定しており、読替は軽水炉と同様とした。

②維持規格案【資料 66-13-2】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・維持規格に対する規制側の要求は現状明確になっていない。地震評価についても今後検討する必要がある。

③溶接規格案【資料 66-13-3】

原子力専門委員会二次投票（可決）／再投票（反対票有り）結果に対する対応案に関する説明が行われた。議論の結果、二次投票回答案が妥当であること、再投票分については論点を整理し、二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（10-8）高速炉規格改訂案に関する審議【資料 66-14】

高温規格分科会の浅山主査より高速炉規格 2011 年追補版案の原子力専門委員会書面投票結果（可決）と今後の対応について説明が行われた。既に第 57 回規格委員会において、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会書面投票開始が承認されているため、原子力専門委員会書面投票回答案の審議はメールベースで行い、それを踏まえて規格委員会書面投票を開始する提案が委員全員の賛成により承認された。

（11）各分科会活動報告【資料 66-15】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

次回原子力専門委員会は 11 月 22 日（火）開催となった。

以上